



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないなどの課題に対応する。
- ・家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、**今後の社会の急激な変化に主体的に対応する。**

目標の構成の改善

家庭科で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 家庭生活を大切にできる心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

内容の構成の改善

児童生徒の発達を踏まえ、小・中学校の各内容の接続が見えるように、従前の四つの内容を三つの内容とし、系統性の明確化を図っています。

現行学習指導要領

- A 家庭生活と家族
- B 日常の食事と調理の基礎
- C 快適な衣服と住まい
- D 身近な消費生活と環境

新学習指導要領

- A 家族・家庭生活
- B 衣食住の生活
- C 消費生活・環境

各内容項目の指導事項の「ア」は「**知識及び技能**」の習得に係る事項です。指導事項の「イ」は「**思考力、判断力、表現力等**」を育成することに係る事項です。

「**学びに向かう力、人間性等**」については、目標において示しています。

【例】B 衣食住の生活

(1) 食事の役割

ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。

イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること。

学習内容の改善・充実

学習内容については、次のような改善・充実が図られています。

○社会の変化への対応

家族・家庭生活に関する内容、食育の推進に関する内容、日本の生活文化に関する内容、自立した消費者の育成に関する内容の充実を図っている。

○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の充実

実践的・体験的な活動を一層重視するとともに、調理及び製作において一部の題材を指定している。

(例)・「調理の基礎」において、「ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱うこと」

・「生活を豊かにするための布を用いた製作」において、「日常生活で使用する物を入れる袋などの題材を扱うこと」

○知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

内容Aの項目に「家族・家庭生活についての課題と実践」を新設し、内容B、Cと関連を図って一つ又は二つの課題を設定し、実践的な活動を家庭や地域で行うなど、改善を図っている。

2 小学校家庭科における授業づくりのポイント

Point 1

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

家庭科では、「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行うことが重要です。

〈主体的な学びの視点〉

- 日常生活の中から課題を設定できるように、既習の知識及び技能や生活経験を基に自分の生活を見つめる場面を設定する。
- 実践した過程や結果から、新たな課題について考えるための振り返りの場面を設定する。

〈対話的な学びの視点〉

- 様々な課題解決の方法を考える際、よりよい方法を判断・決定できるように、他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりするようにする。
- 様々な視点から考えたり、考えを明確にしたりするために、児童同士、家族や身近な人々などとの対話を行う場면을題材に応じて設定する。

〈深い学びの視点〉

- 日常生活に必要な知識が質的に高まったり、技能が確実に定着したりするように、一連の学習過程(Point 2参照)を踏まえて、題材を構想する。

Point 2

実生活との関連を図った問題解決的な学習をしましょう。

小学校家庭科では、「自己と家庭、現在及びこれまでの生活」を学習対象(中学校技術・家庭科〔家庭分野〕の学習対象は、「家庭と地域、これからの生活を展望した現在の生活」としています。そのため、小学校では家庭生活を見つめ直し、学んだことを家庭生活に生かしていく活動を重視して、題材構成をする必要があります。

この学習対象の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交換し、実践を評価・改善して新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図りましょう。

○家庭科の学習過程の例 (小・中・高等学校に共通して、重視している学習過程)

生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動		実践活動の評価・改善	家庭・地域での実践
既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する。	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する。	解決の見通しをもち、計画を立てる。	生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う。	実践した結果を評価する。	結果を発表し、改善策を検討する。	改善策を家庭・地域で実践する。

※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではない。

2年間を見通して、このような学習過程による題材を計画的に配列し、課題を解決する力を育むことが大切です。そして、児童が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようにしましょう。

Point 3

生活の自立の基礎を培うため、実践的・体験的な活動を充実させましょう。

日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能は、実習や実験、調査、観察などの活動を通して習得するものであり、家庭科では、生活の自立の基礎を培うため、従来から実践的・体験的な活動を重視しています。

児童が自ら直接的な体験を通して、調理や製作などの手順の根拠について考えることにより、科学的な理解につなげ、知識及び技能の習得を確かなものに行うことができると考えられます。

次の点を注意して指導に当たりましょう。

指導に当たっては、実践的・体験的な活動を中心とし、児童が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な活動を設定することが必要である。

(第3章 指導計画の作成と内容の取扱い)



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・技術分野では、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができるよう、技術を**評価、選択、管理・運用、改良、応用**することが求められている。
- ・実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに関わる技能を身に付けるとともに、**問題を見いだして解決する力**や、持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ**誠実に技術を工夫し創造しようとする態度**等を育成する。

目標の構成の改善

技術分野で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

思考力・判断力・表現力等の育成

- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図などに表現し、試作などを通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

内容の構成の改善

育成を目指す資質・能力のうち「**知識及び技能**」をアとして、「**思考力、判断力、表現力等**」をイとして示しています。「**学びに向かう力、人間性等**」については、各分野の目標に示しています。

現行学習指導要領

- A 材料と加工の技術
- B エネルギー変換の技術
- C 生物育成の技術
- D 情報の技術

新学習指導要領

- A 材料と加工の技術
- B 生物育成の技術
- C エネルギー変換の技術
- D 情報の技術

【例】A 材料と加工の技術

- (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術
- ア 材料や加工の特性などの原理・法則と、材料の製造・加工方法などの基礎的な技術の仕組みについて理解すること。
- イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。

※各内容を示す順序は、各学校における指導学年等を規定するものではないが、小学校における生活科や理科等の学習との接続を重視する視点から、生物育成の技術に関する内容とエネルギー変換の技術に関する内容の順序を入れ替えた。

学習内容の改善・充実

社会の変化への対応等について、次のように改善を図りました。

○社会の変化への対応

急速な発達を遂げている情報の技術に関しては、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし発展させるという視点から、従前からの計測・制御に加えて、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングについても取り上げる。

加えて、「安全に情報を利用するための仕組み」など、情報セキュリティについての内容を充実する。

2 中学校技術・家庭科【技術分野】における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

技術分野の指導に当たっては、「知識及び技能」を習得すること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されることが大切です。
また、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行うことが重要です。

〈主体的な学びの視点〉

- ・現在及び将来を見据えて、社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定するようにする。
- ・課題の解決に向けて、見通しをもつ場面を設定する。
- ・学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む場面を設定する。

〈対話的な学びの視点〉

- ・様々な視点に気付いたり、よりよい考えを構想したりするために、他者と対話したり協働したりする場面を設定する。
- ・直接、他者との協働を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るなどの活動を行う。

〈深い学びの視点〉

- ・一連の学習活動（Point2参照）の中で、「技術の見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を身に付けるようにする。

「技術の見方・考え方を働かせ」とは、技術の開発・利用の場面で用いられる「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること」という、技術分野ならではの学習です。

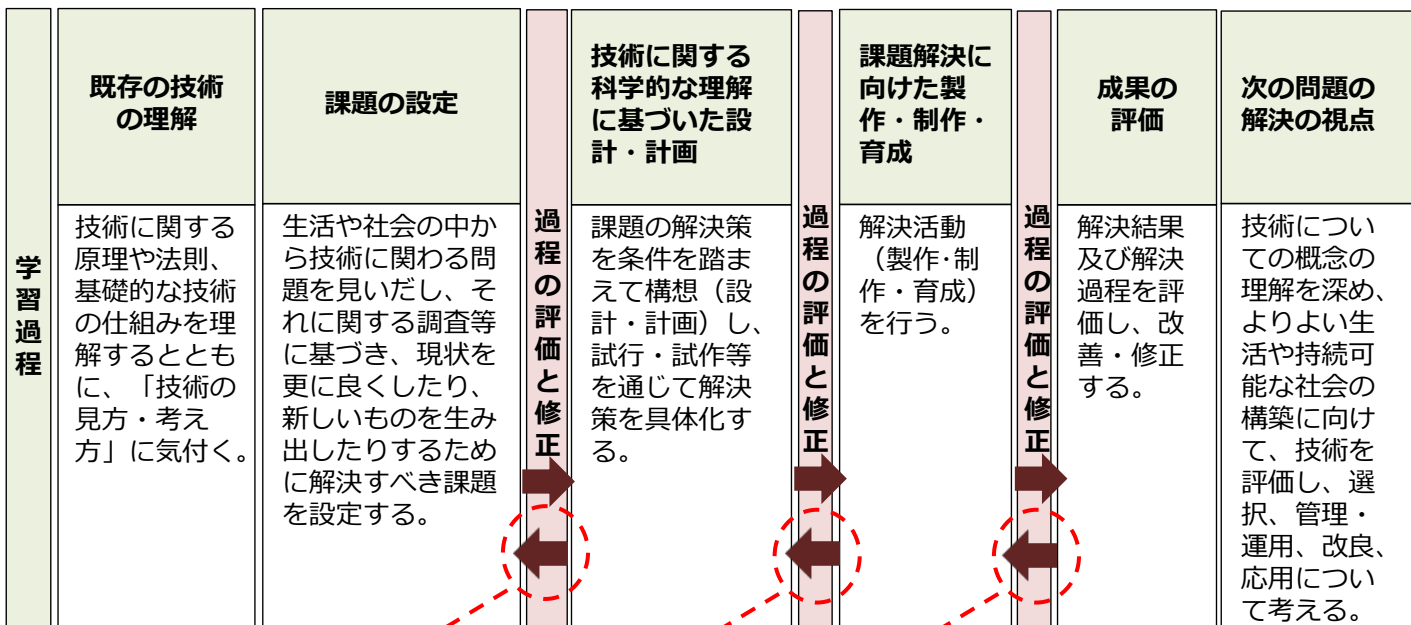
Point2 生活や社会の中から、技術に関わる問題解決的な学習をしましょう。

技術分野で育成することを目指す資質・能力は、単に何かをつくるという活動ではありません。
具体的には、まず、技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを理解した上で、生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定します。

そして、解決策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行い、その解決結果や解決過程を評価・改善します。

さらに、これらの経験を基に、今後の社会における技術の在り方について考えるといった学習過程を経ることで目指す資質・能力を効果的に育成できます。

今回の改訂では、次の学習過程を想定しています。



学習過程は一方的に進むものではなく、設計・計画の段階で適切な課題の解決策が構想できないといった問題が生じた場合は、課題の設定に戻り課題の再設定を行うなど、試行錯誤をしながら進めていきます。



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないなどの課題に対応する。
- ・家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、**今後の社会の急激な変化に主体的に対応する。**

目標の構成の改善

家庭分野で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

内容の構成の改善

児童生徒の発達を踏まえ、小・中学校の各内容の接続が見えるように、従前の四つの内容を三つの内容とし、系統性の明確化を図っています。

現行学習指導要領

- A 家庭生活と家族
- B 食生活と自立
- C 衣生活・住生活と自立
- D 身近な消費生活と環境

新学習指導要領

- A 家族・家庭生活
- B 衣食住の生活
- C 消費生活・環境

各内容項目の指導事項の「ア」は「**知識及び技能**」の習得に係る事項です。指導事項の「イ」は「**思考力、判断力、表現力等**」を育成することに係る事項です。「**学びに向かう力、人間性等**」については、目標において示しています。

【例】B衣食住の生活

- (5)生活を豊かにするための布を用いた製作
- ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。
 - イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。

学習内容の改善・充実

具体的には、主に次のような改善・充実が図られました。

○社会の変化への対応

家族・家庭生活に関する内容、食育の推進に関する内容、日本の生活文化に関する内容、自立した消費者の育成に関する内容の充実を図っている。

○知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

「生活の課題と実践」について、A、B、Cの各内容に位置付け、他の内容との関連を図り、実践的な活動を家庭や地域で行うなど、内容の改善を図っている。

2 中学校技術・家庭科【家庭分野】における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

技術・家庭科（家庭分野）の指導に当たっては、「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行うことが重要です。

〈主体的な学びの視点〉

- ・現在及び将来を見据えて問題を見だし課題を設定できるように、既習の知識及び技能や経験を基に、自分の生活を見つめる場面を設定する。
- ・新たな課題に主体的に取り組む態度を育むために、学習の過程を振り返って実践を評価・改善するようにする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・様々な課題解決の方法を考える際、よりよい方法を判断・決定できるように、他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりするようにする。
- ・様々な視点から考えたり、考えを明確にしたりするために、生徒同士、家族や身近な人々などとの対話を行う場면을題材に応じて設定する。

〈深い学びの視点〉

- ・日常生活に必要な知識が質的に高まったり、技能が確実に定着したりするように、一連の学習過程（Point 2 参照）を踏まえて、題材を構想する。

Point 2 実生活との関連を図った問題解決的な学習をしましょう。

中学校技術・家庭科〔家庭分野〕では、「家庭と地域、これからの生活を展望した現在の生活」を学習対象（小学校家庭科の学習対象は、「自己と家庭、現在及びこれまでの生活」）としています。

この学習対象の中から問題を見だして様々な解決方法を考え、他者と意見交換し、実践を評価・改善して新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図りましょう。

○家庭（家庭分野）の学習過程の例（小・中・高等学校に共通して、重視している学習過程）

生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動		実践活動の評価・改善	家庭・地域での実践
既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する。	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する。	解決の見通しをもち、計画を立てる。	生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動等を行う。	実践した結果を評価する。	結果を発表し、改善策を検討する。	改善策を家庭・地域で実践する。

※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではない。

3年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切です。

Point 3 習得した知識・技能を生活の場で生かせるよう、実践的・体験的な活動を充実しましょう。

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能は、実習や体験等の活動を通して生徒が習得するものであり、家庭分野では、従来から実践的・体験的な活動を重視しています。次の点を注意して指導に当たりました。

指導に当たっては、実践的・体験的な活動を中心とし、生徒が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動（製作、調理などの実習、観察・実験、見学、調査・研究など）の設定が必要である。

また、生徒の生活の実態を把握し、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへと発展させ、無理なく学習が進められるよう配慮して、学習の充実感を味わわせるとともに、発達段階に応じた適切な資質・能力が身に付くよう配慮することが重要である。（第3章 指導計画の作成と内容の取扱い）